



「中学校建設に関する説明会」の途中報告

先号で、町長が中学校建設に向けた動きを早めたいとの思いから、中学校建設に関する考え方を示したことについてお伝えしました。これを受けて、教育委員会では去る6月26日に春松小学校、27日は羅臼小学校を会場に、町長の考え方を伝えるため校区别説明会を開催しました。

参加者は春小会場で20名、羅小会場では9名と思いのほか少なかったのが残念ですが、春松会場では“建設場所”に関するを中心に、提案も含め多くのご意見が寄せられました。なお、羅小会場では、出来るだけ早く建てて欲しいということのほか、特筆する意見・質問等はありませんでした。

さらに7月9日、校区别説明会で出された意見等に対する補足説明も含め、両校区のPTAの皆さんで情報共有していただくことと、さらなる意見・提案等を確認するため、町PTA連合会にお願いして羅臼小学校を会場に役員会を招集して頂きました。

また、7月18日には、峯浜町々内会からの要請に応じ、峯浜会館を会場に住民説明会を開催しました。峯浜地区では、通学バスに関するご意見が多く寄せられました。

それぞれの説明会で伺った意見・提案等を発言要旨ごとに大きく(1)～(5)にまとめ、次の通りご紹介・ご報告いたします。

なお、重複する内容も多くありましたので、発言内容については要約して記載していますのでご了承願います。



【参加者からの意見・提案の内容】



(1) 両中学校を廃校して、新たに中学校を1校建設することについて

①中学校1校化はやむを得ないと考える。

(2) 建設用地について

①過去、羅中火災があった際、建て替えの提案をしたところ、裏山が急で危険なため適地ではないという話もあったが、このことはクリアされているか。

②羅中敷地内に建設という事であれば、現校舎と別の位置に建設することになると思うが、狭い敷地であり、部活動等で窮屈な面が出てくる。

また、幌萌地区であれば野球場、テニスコート、ソフトボール場の有効活用ができる。



避難の場合でも、羅中はグラウンドも含め駐車スペースとしては狭いが、幌萌地区であれば用地が広く、ヘリポートもできるので利点があるのでは？これらの点について、検討した上での判断か？

③建設場所として幌萌地区と高台地区を比較したか、あれば提示して欲しい。

④土地有効利用の考え方は理解するが、一番に考えてほしいのは子どもたちのこと。財政的なこともあると思うが、子どもたちが過ごす環境のことを第一に考えて建設場所を決めて欲しい。

⑤春松地区の人間として、羅臼地区を建設地に選んだプロセスが見えないことへの疑義が出るのは当然。

⑥羅中の坂のことが心配。多くの親は車で送迎すると思われるが、急で狭い道路で混雑しないか。道路改良の考えは？



⑦部活動で頑張っている子どもたちのことを考えると、環境の整っている幌萌地区が適地と思う。

⑧建設場所については、最終決定前に町長の考え方を聞きたい。

(3) 防災について

①防災機能としての検討で、高台地区と幌萌地区の比較はしたか？

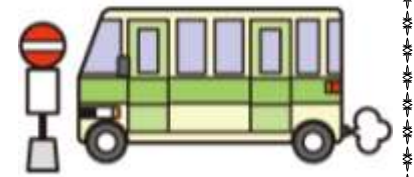


②津波への対応ということでは高台は理解できるが、雪崩、土砂崩れも想定した場合は幌萌地区の方が安全ではないか。

③避難所として、岬町は旧知円別学校、市街地は体育館、公民館、羅臼小学校、礼文町は羅臼高校があるが、春松地区でより高所ということであれば幌萌地区も考えられる。

(4) 通学に関して

①バス通学に係る助成等の考えとスクールバス運行の考えはないか。



②通学バスの手立て、バス時間への配慮等について、万全を期していただきたい。(峯浜地区では、幼稚園児と小・中学生の通学バスの時間が違うため、両方の子どもがいる場合、二度バス停まで送らなければならないので、なんとかならないか。)

③高台に建設した場合、冬期間の吹雪等による途中下校の対応の際、峯浜地区の子どもの送迎には相当距離がある。

(5) その他

①中学生になって1校になるよりは、小学生から1校の方が、子どもにとって良いのではないか。



②平成23年度の再検討委員会の中では、どうしても中学校1校を建てなければならないのかという質問もさせてもらった。子どもの数が減少する推計の中で、小学校をどちらかに統合して1校化し、もう一方の小学校を中学校に転用するという考えもあった。

③行政サイドである程度が決まっっていて、その報告にしか聞こえない。(我慢してくださいという話にしか聞こえない)「どこに建てたらいいですか？」という問いかけはなかった。

お忙しい中、それぞれの説明会にご出席いただいた皆様に心から感謝申し上げます。中学校の1校化については、概ねご理解頂けている感触でしたが、建設予定地については、それぞれ地域の方々の思いをうかがうことができました。

このほか、連合町内会からの要請を受け8月9日(金)にも説明会を予定しており、さらにご意見等をいただき、お寄せいただいたご提言等も検討材料に、町としての方向性をまとめて参ります。

なお、今回の説明会は、現時点での町長の考え方を説明することを目的としており、中学校建設に向けた議論の入口に立ったということですので、ご理解をお願い致します。

ちょっと気になる・・・

「羅臼高校」の今後

～羅臼町教育委員の視察研修より～

北海道では、少子化等を背景に公立高等学校の適正配置について検討が進められています。今後、さらに少子化が進み、羅臼高校への入学者が減少していくことになることになると、他町からの入学者がほとんど見込まれない羅臼高校は、その存続自体も危惧されるところです。

他の自治体では、既に統廃合や統廃合の対象となっている高校もあり、地元に残すための方策として特色ある工夫や取り組みを行っている町もあります。

そのようなユニークな実践事例を学ぶため、羅臼町教育委員会では先般、全道の教育委員研修会の日程に合わせて日高町を訪れ、日高町教委と日高(ひだか)高校が連携して取り組んでいる実践を視察して参りました。

【日高町の概要】

日高町は、北海道日高管内の西部に位置し、日高町のある北東から門別町のある南西に流れる「沙流川」の源流から下流にかけて構成されています。

町域は、間に平取町を挟んだ「飛び地」になっており、本庁と総合支所間の距離は約 65 km で、車で約 1 時間の行程となります。



【日高町教育委員会と日高高等学校の連携事例】

日高高校は、昭和 24 年、北海道静内農業高等学校の日高分校として開校しました。

昭和 61 年、在籍生徒数が 22 名となり、高校存続問題が議論され、町と町教委は、高校存続とまちづくりの活性化を目指し、昼はスキーを中心としたスポーツ全般やアウトドア活動などの体験学習を行い、夜間は日高高校で学ぶという新しい学習システム(産学制度＝産業学習推進制度)を発足させ、平成 2 年から第 1 期生の受け入れを始めました。

この産学制度は、産業学習を学校外の学修として単位認定し、高校での教科科目の習得と併せて 3 年間で卒業できるシステムです。

産業学習については現在次の 2 コース制が設定されています。

◎スキーアスリートコース

：競技スキー、基礎スキーの技術向上とその特性を生かした進学を目指します。



◎キャリアデザインコース：インターンシップなどの体験学習や総合的な学習の時間を活用して早朝から勤務観・職業観を醸成した上で、個々の希望職種に応じた能力を身につけさせて、確実な就労を目指します。また、本人の能力・適性に合った学習方法や入学方式を選択させ、確実な上級学校進学を目指すものです。



平成 25 年度の在籍生徒数は、1 年生 17 名、2 年生 9 名、3 年生 6 名の計 32 名で、日高町内からの入学生は 4 名、その他道内から 11 名、残り 17 名は道外からの入学者だそうです。

この高校は町立高校ということもあり、当然、町の一般会計から財源投入されていますが、その額は昨年度は 57,750,000 円と大きな額が注ぎ込まれています。

日高町出身者が在籍生徒数全体の 1 割ちょっとに過ぎないにもかかわらず、多額の町費を投入していることに疑問を持ち質問したところ、教育長から「全ての子どもたちは宝であり、全道・全国的な視点で育てる。」という答えが返ってきました。(すごい!!)

また、人口減・高齢化が進む日高町にとって、生徒たちは地域行事等への参加も含め、地域にとっては無くてはならない存在となっているようです。



毎年恒例の地域行事「ひだか樹魂まつり」の流送レースに産業学習生が参加した様子⇒

一方、羅臼高校は現在、道立の普通科高校として運営されていますが、授業の中に知床について学ぶ自然環境科目群の設定や町教委・羅臼漁協・高校が連携して実施している「高校生の水産教室」(今年度で第 29 年次目)では、スキューバー・ダイビングのライセンス取得を目指すプログラムの導入など、今後、心配される「高校存続」ということも視野に今後の方向性を模索しながら支援を進めています。

今年も探険隊!!

今年、第 31 回を迎える「ふるさと少年探険隊」は、来る 7 月 31 日から 8 月 5 日の日程で開催されます。

今回の参加児童・生徒は 30 名(小学生 23 名、中学生 7 名)。なんと!! 知床岬を目指すチャレンジ隊は、15 名と近年稀な大人数です。8 月 5 日に全員無事に帰還できるよう、スタッフ一同、務めてまいります。



昨年度の探険隊より

シリーズ「栄養士からの情報提供」—No.11—

食中毒警報って十二???

ようやく夏らしい暑さ(暖かさ?)になってきましたね(^ ^)

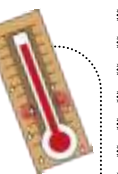
数年前から、暑い日が続くと防災無線で「ただ今、食中毒警報が発令されております～」と放送されていますが、お気づきですか?『食中毒が起きやすい環境なので、気を付けてくださいね』という保健所からのお知らせなのですが、食中毒というと飲食店での食事が原因というイメージが多いので、家でのことはあまり関係ないんじゃない?と思う方も多いのでは・・・?!

平成 22 年のデータですが、食中毒が発生した施設の数の 1 位は飲食店から。2 位はナント!! 家庭からなんです。家庭で発生した場合は症状が軽いケースが多いことや、必ずしも食べた人全員が発症するということが無いので、夏風邪や寝冷えなどと勘違いしてしまうことが多いのだとか。それでも抵抗力の弱い人(お年寄りや小さい子など)がかかった場合は、死亡したり重症になるケースもあるので、侮(あなど)ってははいけません!!

食中毒では、「食品が傷む」とは違い、ニオイや見た目では判断できないレベルで細菌が増えるので、人間の感覚センサーでは残念ながら探知しきれません。なので、少しでも怪しいと思ったら、もったいなくても捨てる勇気が大切です。口に入れてはいけません!!

食中毒を起こさないためには、怪しい食品の排除だけでなく、予防するのが一番のポイント。食中毒予防の原則は、「付けない・増やさない・殺す」なので・・・、

- ★付けない：菌がつかないように衛生的にすること。
- ★増やさない：菌が増える条件＝栄養がある・水分がある・増殖しやすい 20℃～50℃の温度で食品を放置しない。
- ★殺す：中心部の温度を 75℃以上で 1 分以上加熱する。



⇒要は、「キッチンで使う道具・食器をきれいにし、しっかり手を洗って、温かいものは温かい状態を、冷たいものは冷たい状態をキープする」ということ。中でも温度管理が一番のポイントになります。



いよいよ本番の昆布漁シーズン、最盛期には寝る時間もろくにないナドナド…。体力が低下すると抵抗力も落ちるので、食中毒にもかかりやすくなります。気温・湿度ともに上昇する季節は、菌にとって仲間を増やす好条件♥です。食中毒に気を付けてくださいねー p(〇)q